

2024 年度第 2 回価格審査会の開催について

2024 年度第 2 回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、外部の有識者によって、当財団が発刊・公開する定期刊行物等の掲載価格について、その客観性、妥当性の審査を行うものです。

開催日時	2024 年 5 月 15 日(水) 10:00~12:00
場 所	本部 6 F 大会議室
委 員	松田 寛志 日本工営株式会社 流域水管理事業本部 本部長 鈴木 由香 株式会社日本設計 コスト設計部長 辻 保人 一般財団法人日本建設情報総合センター システム事業部門 コリnz・テクリスセンター長 早川 和利 東日本旅客鉄道株式会社 東京建設プロジェクトマネジメントオフィス プロジェクト支援ユニット プロジェクト予算 マネージャー(総括)
当 会	共通資材調査部 部長：大澤 勝、次長：小林 法雅 建築調査部 部長：高橋 俊一、次長：岩井 卓矢 監査審査室 室長：黒澤 昭浩 調査統括部(事務局) 部長：柴尾 治、課長：本間 哲

2024 年度第 1 回価格審査会議事録(案) 確認

2024 年度第 2 回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明

1. 「建設物価」6月号、「Web 建設物価」6月号の価格動向

・価格が上伸した資材（工事費）

【Web 建設物価】

異形棒鋼（札幌市ほか9都市）、H形鋼（青森市ほか28都市）、等辺山形鋼（青森市ほか28都市）、レディーミクストコンクリート（函館市ほか24都市）、再生砕石類（富山市ほか6都市）、アスファルト混合物（さいたま市ほか22都市）、ストレートアスファルト（札幌市ほか56都市）、インターロッキングブロック（福岡市ほか6都市）、600Vビニル絶縁電線（IV）（北海道地区ほか9都市）、鉄スクラップ（札幌市ほか24都市）ほか。

・価格が下落した資材（工事費）

【Web 建設物価】

コンクリート型枠用合板（那覇市）、燃料油（札幌市ほか9都市）、鉄スクラップ（青森市ほか14都市）ほか。

2. 比較資料

・企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明

審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
質問 1	「平鋼」の値上がりに対する補足コメントにある「流通筋」とは何か。補足コメントで「流通各社」とあったが、これは「流通筋」と異なるのか。また、市況コメントで「流通各社の物流費」とあるが、これは「輸送コスト」とみてよいか。	「流通筋」とは問屋や販売店など。「流通筋」と「流通各社」は意味合いとしては同じだが、「流通筋」は流通業者全体、「流通各社」は流通に携わる各社を指している。また、鋼材の市況コメントにある「物流費」と「輸送コスト」は同じものを指している。
質問 2	「コンクリート表面被履塗料」の値上がり要因で「コンテナ不足」との説明コメントがあったが、コンテナが不足している要因は何か。	塗料に限らず海運需要の急増に伴う世界的な流通量の増加、コンテナ需要の増加に対する港湾設備の容量不足、そして 2024 年問題に起因する港湾労働者の不足など、様々な要因が複合してコンテナ不足の状態となっている。
質問 3	「伸銅品」の補足コメントで「国際相場の上昇を背景に上伸」とあるが、これまで徐々に上昇していたものが、急激に上昇している要因はなにか。また今後の銅相場の見通しはどうか。	銅の国際相場上昇は複合的な要因によるものである。需要面では、脱炭素化に向けた再生可能エネルギーの設備投資に関連する需要が増大していることが要因となっている。供給面では、銅鉱山での事故や産出国の政情不安により供給体制が不安定であることが要因となっている。これら需給動向や政情不安、円安などの要素が重なり急激な上昇となっている。先行きも、需給ひっ迫が継続するものとみられ、需要の落ち込み等で下落に転ずる要素は見受けられないことから、高値推移と予想される。
質問 4	建築用塗料の最大変動率が 48.5% と非常に高い。価格変動の具体的な要因は何か。また、メーカーは複数社あると認識しているが、メーカー間の価格競争はないのか。	塗料の最も大きな価格変動要因は原材料である原油価格の値上がりである。メーカーは複数社あるが、主要メーカー 3 社で市場の 70% 程度のシェアを占めている。通常、主要メーカー各社がプライスリーダーとなり市場が形成され、その中で価格競争も発生しているが、今回は価格競争よりも原材料および輸送コストの上伸分を製品価格に転嫁する動きが強く市況が大きく変動した。
質問 5	鉄スクラップで東日本の都市のみ値下がりしている。説明コメントで関東地区の工場トラブルの影響について言及していたが、どのような状況か。	関東の主要な製鋼工場設備トラブルが発生し、一時的に製鋼がストップした。主要工場がスクラップの受け入れを一時停止したことで、周辺工場の買い取り価格が下がり、結果として関東地区および近隣の東北、北陸地区で市況が下落した。

質問 6	レディーミクストコンクリートの一部規格が多く都市で価格掲載ありから、価格掲載無しに変更になっているが、どのような理由か。	レディーミクストコンクリートの一部規格が JIS 改正により廃止されたことによるもの。現在、製造・販売している地区でも今後価格掲載無しに変更になることが予想される。
質問 7	砕石で値上がりした地区が富山地区に集中しているが、震災復興の影響があるのか。	富山地区の砕石の値上がりは、震災の影響が無いとは言い切れないが、地区内の原石不足等の影響から、ここ 2～3 年で徐々に進めてきている値上げ交渉の進展という要素が大きい。
質問 8	軽量コンクリートにおいて複数都市で価格掲載から三点リーダーに変更になり価格掲載が無くなっている。補足コメントに「市場流通少なく」とあるが、これは全国的な傾向なのか。	軽量コンクリートは都市部の高層建築等での利用が多いが、地方部での利用は少ない。また、生産には高価な軽量骨材を別途用意しなければならないため、出荷量が少ないなか都度見積の受注生産品として対応する地区が全国的に増加している。
質問 9	レディーミクストコンクリートの補足コメントと市況コメントに記載している規格が、18-18-25 と 21-18-20 と違っているが、何か理由があるのか。	レディーミクストコンクリートは地区毎に代表規格が異なっている。全国で統一して指標を示す場合には、一般的な 18-18-25 を使用し、市況記事等で地域性を考慮する場合は、その地区における代表規格を記載している。
質問 10	主要建設資材（10 品目）の需給・価格動向の電線について、過去より全国で同じような地域差で値動きしているが、地域差の主要因は何か。	地域差の主要因は、メーカー工場からの掲載都市までの距離に応じた輸送費によるものである。
質問 11	5 月号と比較して 6 月号の価格変動が多い理由は何か。	メーカーや流通筋は、年度替わりとなる 4 月から値上げを実施するところが多く、値上げ浸透までの期間を考慮すると、5 月号ではなく 6 月号またはそれ以降に反映されることが多い。
質問 12	鋼材の補足コメントに「原材料や輸送コストの増加に伴うメーカーの値上げ」や「輸送コストの増加に伴うメーカーの値上げ」と「コスト増を背景とするメーカー及び流通筋の値上げ」という内容について、同じ値上げであっても表現方法は異なっている。表現方法としてルールはあるのか。	補足コメントの表現方法は、主たる値上げ要因を重視している。例えば、値上がり要因が、メーカーの原材料と輸送費の値上がりであれば、その両方を記載し、どちらかであれば一方のみを記載している。

質問 13	<p>主要建設資材（10品目）の需給・価格動向にあるセメントとレディーミクストコンクリートについて、セメントは販売量が減少しているなかで現行価格維持しているが、レディーミクストコンクリートは価格が上伸している。セメントとレディーミクストコンクリートの関係性を教えてほしい。</p>	<p>レディーミクストコンクリートの主原材料がセメントであることから、レディーミクストコンクリートとセメントは、価格面で密接な関係がある。セメント価格が2022年以降5,000円程度値上がりしたことにより、原材料の値上がりを背景としたレディーミクストコンクリートの値上げが相次いだ。現在は、セメント価格の値上がり分の価格転嫁が概ね浸透していることから、人件費や輸送コスト、骨材価格の上昇などのセメント価格以外の値上げを要因とする値上げが多く見られるようになっている。</p>
審議結果	<p>「建設物価」6月号、「Web 建設物価」6月号の価格動向に問題はなかった。</p>	

以 上